

# 北越魂

今回はみんなの先輩方である教育実習生特集です。実習の先生方にお伺いしました。

## 高校時代に頑張ったこと

### ○政治経済 佐藤 一機先生

蹴球と勉強だけです。“文武両道”がモットーでした。両方ともある程度の成果を残せたと思いますので、自己満足です。部活については 1 年生の頃から朝練を続けました。五泉駅発 5 : 19。数時間に 1 本しかない磐越西線万歳！！

### ○数学 工藤 悠二先生

毎日が惰性であることにいてもたってもいられず、2 年生の中盤から卒業までいじられキャラを貫き通したことです。今、あの時のことを振り返るとぞっとします。

### ○保健体育 椎谷 良平先生

毎日 柔道をやっていました。柔道ではインターハイや選手権の全国大会にも出場することができました。毎日すごく厳しい練習でしたが、今思えばよい思い出です。

### ○日本史 小出 春人先生

部活をがんばりました。サッカー部に所属していて、毎日のように朝練や夕方の練習がありました。授業に集中できなかつたり、寝てしまったときもありましたが、サッカー部の仲間やクラスの友達に助けてもらったのはよい思い出です。

### ○情報 石川 伶先生

陸上部。部活中心の毎日でした！！

### ○政治経済 新保 翔大先生

特進クラスに所属していたため、部活との両立できなかったが、とにかく勉強頑張りました！！

### ○保健体育 鈴木 総一郎先生

北越高校時代はラグビー部に所属し、3 年時には主将として活動しました。残念ながら、花園にはいけませんが、その時に学んだ「あきらめない心」で大学もラグビーすることに決意しました。

### ○保健体育 大野 優先生

部活動一色でした。サッカー部では同じ目標を持つ仲間とその目標に向かって頑張れたことは私の人生で大きな 1 ページとなっています。

### ○保健体育 小林 麻衣子先生

私の専門競技はサッカーです。高校時代はクラブチームに所属しながら、学校生活とサッカーを両立させました。大切なのは「毎日全力を尽くす」ことです。常に前向きに、プラス思考で生活を送っていました。

### ○家庭科 坂井 絵利奈先生

やっぱり受験勉強だと思います。受験する友人が少なくて、寂しくなったりしましたが受かったときはかなり嬉しかったです。

## 大学ってどんなところですか。

○大学は**自由**で、楽しいところです！自分で決めて行動しなければならないので、その分、**責任**もあります。自立できる。友達の輪も高校とは、比べものにならないくらい広がっている人々と出会えます。方言も様々で何を言っているか分からないことも！？

家庭科 坂井先生

○一言で表すと「自由」！しかし、全てにおいて**責任**を持たないといけない。また、高校では習わないようなことを学べます。

情報 石川先生

○授業は90分。授業は政治経済分野をより専門的に見ていくものがほとんどで、ほかに憲法や日本史など社会系系統の科目も少し存在する。ほかにボランティア（地域の行事）やアルバイトなどもできます。楽しいですよ。サークルも多くあります。また、一人暮らしなので何でも自分でやらないといけないので大変！

政治経済 新保先生

○**自由**なところです。自分がやりたいことに対して、ひたすら向き合うことができます。学びたいこと、将来の夢がはっきりしている人には天国のようなところです。逆に、何も目的を、持たずにいくと無駄な日々になってしまいます。**自由**なだけに行動には **責任**があります。

日本史 小出先生

○大学では色々な授業があります。東海大学は総合大学なので、体育学部で保健体育の免許を取りながら、他の科目の免許も取ることができます。高校の時には知り得ないような知識も増える為、すごく楽しいです。

保健体育 椎谷先生

○学部、専攻、進路、免許などにより授業の曜日や時間が異なり、自分で学生生活をコーディネートできます。しかし、その分自己**責任**の度合いが強くなります。“自由”が保障される代わりに、“義務・責任”が伴うのです。授業は教授ごとに異なっており、何百人単位の授業もあれば、数人でディスカッションするものもあります。授業スタイルも自分で選べるのです。全ては自分自身で決めることだ！！

政治経済 佐藤先生

○**自由**なところです。時間割をある程度自分で決めることができるため、平日を休みにすることも可能です。**自由**時間も多いため、何かに時間をかけてやってみるのもよいかもしれません。ただ、授業のスピードは高校の2倍以上あると思います。自分で勉強する必要があるというのも大学の特徴です。

数学 工藤先生

○現在ラグビー部の寮で生活しています。部員130人で生活しているため、いつも賑やかで楽しいです。だからつらいことがあっても仲間がいるのでくじけずに大学4年目を迎えました。大学では教員になるための勉強とラグビーをしています。

保健体育 鈴木先生

○日本体育大学体育学部に通っています。大学のほぼ全員が部活動やサークルに所属しながら教員を目指している人がたくさんいます。実習活動もたくさんあり、海浜実習、キャンプ実習、スキー実習などどれも自分を成長させるものです。体育教師を目指している人は是非、日体大に入学してほしいと思います。

保健体育 小林先生

○国士舘大学は都内に3つキャンパスがあり私はそのうちの多摩キャンパスに通っています。体育の授業では縄跳びがあつたりと、小学生以来やっていなかった種目があり、楽しかったです。

保健体育 大野先生

## 高校生に一言

○「授業中は集中して勉強すべき！！」君たちは毎日学校で6時間以上勉強しています。これは、普通に考えて多いと思います。6時間も勉強して何も身につかなかったら空しくありませんか。授業に集中して、理解できるように努力した方がよいと思います。その後、遊んだらいいじゃないですか。

数学 工藤先生

○高校生は何事にも**一生懸命**頑張ってください！！

家庭科 坂井先生

○小さい頃から柔道をやっていました。これからの人生もどのような形でも柔道は続けていきたいと思っています。高校生の皆さんも一つでよいので**やりたいこと**を見つけて、これからの人生を過ごしていきください。どんなにつらいことがあっても決して**下を見ずに前を見て自分を信じ**、毎日を過ごしてください。

保健体育 椎谷 先生

○**Go for broke** (当たって砕けろ)

色々なことに挑戦してください。

日本史 小出先生

○**後悔のない**ように高校生活を過ごしてほしい。

情報 石川先生

○**早めに将来を考え、早めに勉強**をすることをお奨めします。後で困ります…。部活動も続けておくと尚よいです。

政治経済 新保先生

○僕にとって高校時代は人生の絶頂期でした。部活と勉強に必死になり、良い先生、友人に恵まれて本当に充実していました。みなさんはどうでしょうか。現状に満足していませんか？

今、北越高校は勉強、部活に適切な学校環境をみなさんに与えてくれていると思いますが、そこからさらに自分で自分に必要な環境を作り出してください。「**想像力→決断力→実行力**」の流れがあなたを変えるでしょう。どうか「**北越高校を卒業して良かった**」と思える**高校生活**を送ってください。少なくとも僕はそう思っている一人です。

政治経済 佐藤先生

○高校生の時に**目標をしっかりとたてる**ことをオススメします。目標を細かく立てていき、一つ一つ達成することで大きな目標達成に近づいていきます。大学受験や就職活動と高校卒業時には大きな選択があります。その時になって動き出すのではなく、その時に**ベストな状態**を持っていくために目標を立てて頑張ってください。

保健体育 鈴木先生

○今、自分が目指しているものは何ですか。必然と今、自分がやらなくてはいけないことが見えてくると思います。高校生活、本当に短い。あの時やれば良かったではなく、**行動に移し、なりたい自分**を目指してください。

保健体育 小林先生

**体育祭まであと6日！！**

**何事も頑張り抜き 輝く自分であれ！！！！**

**頑張っているあなたは 輝いています。**



今回の

## 先生からの 喝

私が信頼し、尊敬するライナス・ポーリング博士（Linus Carl Pauling、1901－1994、米国）は20世紀を代表する化学者で、異なる分野で2つのノーベル賞（化学賞、平和賞）を他人と共有せずに受賞した唯一の人物です。生物Ⅰで紹介される「鎌状赤血球病」を分子病とした発見や、化学Ⅱで学ぶ「電気陰性度」の概念を提唱した人物でもあります。SCIENCEの世界での業績は多岐にわたり、自らの病気をきっかけに後年にはビタミンCの研究も行い、アメリカでは博士の名を冠したビタミンのサプリメントが販売されています。その博士が、若い研究者を指導したときの言葉の一節です。「たぶん古い世代の一員として、私は少々あなた方に説教しなくてはならないようだ。（中略）－しかし彼のいうことを信じ込むんじゃない。あなた自身の理性に照らさずに信頼してはいけない。（中略）恐らく悪い事にノーベル賞受賞者だったとしても、間違っているかもしれない。…そう、だからいつも懐疑的でなくてははいけない。－いつも自分で考えなさい。」・・・さて実は博士には、かの世界大戦における原子爆弾計画の際化学部門のトップに招へいされるが、自分が平和主義者であることを理由にその地位を辞退した、という経歴もあります。自ら正しく考え正しく行動しその責任を持つという人生は、多くの共鳴を得るにふさわしいものと言えるでしょう。



遠藤邦生